

酪農宮崎

令和5年5月31日 印刷
令和5年6月 1日 発行

編集人: 立山 行広
発行所: 宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県経済農業協同組合連合会
電話(0985)31-2100
<http://www.kei.mz-ja.or.jp/>
印刷所: 宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!
毎月1日は牛乳の日!

NO.620
2023年7月



みやざきミルクフェア2023

7月号目次

酪農情勢報告	1	ルーツを訪ねて!	9
飼料価格改定	2	全酪連広告	10
ミルクフェア/県知事贈呈	3~4	全農広告	裏表紙
技術のページ	5~6		
農大通信 Vol.3	7		
農学部ナンノ教授のひとりごと	8		



MILK UP!
プロジェクト



経済連HP

酪農情勢報告

1. 生乳生産動向

令和5年6月15日現在

指定団体	5月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	345,597	95.5	674,870	95.1
東北	41,966	94.5	82,822	94.7
関東	90,580	94.6	179,910	95.3
北陸	6,118	93.1	12,198	93.8
東海	26,833	92.9	52,975	92.9
近畿	12,491	94.7	24,722	94.8
中国	25,355	96.2	50,515	97.2
四国	9,265	96.5	18,301	96.2
九州	49,569	93.6	98,960	94.0
(内、宮崎)	5,974	94.2	11,892	94.1
都府県	262,177	94.4	520,405	94.8
合計	607,775	95.0	1,195,275	95.0

2. 販売状況

令和5年6月15日現在

用途	区分	5月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	260,912	96.1	504,904	95.7
	九州	35,120	93.6	68,401	94.3
はっ酵乳等	全国	37,637	95.5	74,023	95.1
	九州	7,282	100.1	14,387	100.0
特定乳製品	全国	164,723	92.2	326,167	91.4
	九州	4,564	81.5	10,778	81.8
生クリーム	全国	106,535	96.9	213,554	97.7
	九州	2,507	102.2	5,202	102.8
チーズ	全国	37,967	94.9	76,626	98.8
	九州	96	97.3	191	98.5
合計	全国	607,775	95.0	1,195,275	95.0
	九州	49,569	93.6	98,960	94.0

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3. 生乳出荷量別生産者戸数 5月

生乳出荷量	戸数
100 t 以上	8戸
80 t 以上 ~ 100 t 未満	1戸
60 t 以上 ~ 80 t 未満	8戸
40 t 以上 ~ 60 t 未満	24戸
20 t 以上 ~ 40 t 未満	68戸
10 t 以上 ~ 20 t 未満	56戸
10 t 未満	22戸
合計	187戸
最高出荷量	238t/月
平均出荷量	31t/月

4. トピックス

熱中症予防と乳質事故防止を万全に!

もうすぐ梅雨が明け、夏本番を迎えますが、気象庁によりますと今年、南米・ペルー沖の赤道付近の太平洋で海面水温が平年より高くなり、「エルニーニョ現象」が発生しているとみられます。エルニーニョ現象が発生すると日本付近では、夏の気温が低い傾向になるそうですが、地球温暖化の影響に加え、年明けごろまで続いたラニーニャ現象の影響で日本付近は、暖かい空気に覆われやすいこと等から今年の夏は、高温傾向のままで、降水量の見通しも変わらないとしています。夏は、トウモロコシ等飼料作物の生育・収穫期となりますので、心配ではありますが、今のところ大きな影響とはならないようです。逆に輸入穀物飼料となる米国産トウモロコシの生産には、エルニーニョ現象が産地の気候に有効とみられ、豊作予想がなされております。しかし、今年の台風発生状況は、台風発生地域の対流活動が平年より活発となり、平年(25個)よりやや多い29個前後の発生となる予想で、予断を許さない状況となります。台風情報を注視するとともに場合によっては、被害縮小のための十分な備えをお願いいたします。

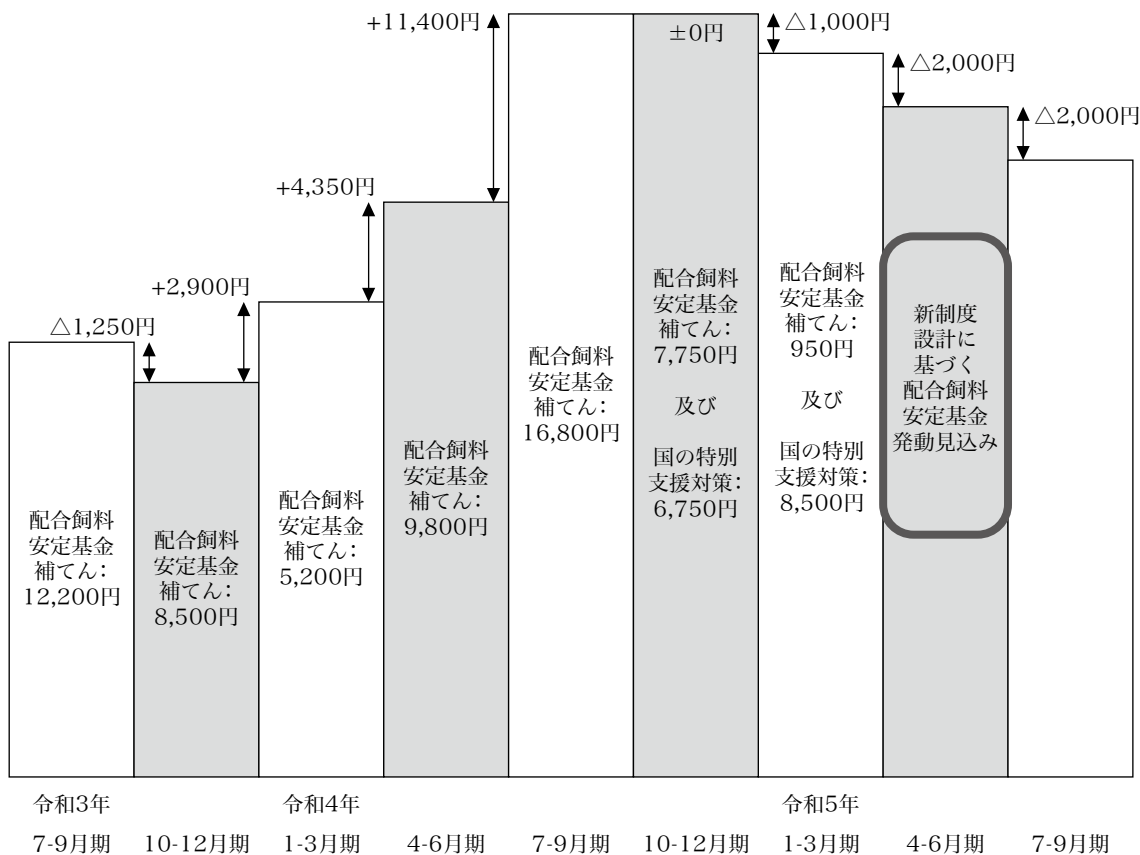
今年の夏は、高温傾向との予想で、気温・湿度の上昇とともに発生件数が増加してくるのが「熱中症」です。実は、熱中症の予防対策に牛乳が有効であるとのことで、適度な運動の後、30分以内にたんぱく質と糖質を含む、牛乳等の食品を摂ると血液量が増え、発汗し易くなったり、皮膚血流が増え、熱放散がし易くなり、体温が上がりにくい体になることが最近の研究で分かっています。更には、牛乳に含まれる必須アミノ酸のトリプトファンの成分等により安眠効果も期待できます。運動後や農作業後、就寝前に牛乳を飲んで、暑さに強い体を作り、健やかな夏を過ごすとともに需要期でもありますので、周囲の方々にも勧めて頂き、酪農関係者一丸となって、牛乳消費拡大にも努めましょう。また、この季節、人の健康も大事ですが、乳牛のストレス軽減も大事ですので、万全な暑熱対策を講じて頂き、傷病等事故並びに乳質事故防止も併せて、よろしく願いいたします。

夏場の乳量確保には、乳牛の快適性も大事ですし、管理する人の健康と乳質事故防止のためのチェックが重要です。日頃より十分注意はして頂いていると思いますが、特に夏場は、乳質事故発生が増えますので、今一度下記項目をチェックし、厳しい経営環境ですので、大事な生乳を廃棄することのないよう、乳質事故の未然防止に努めましょう。

1. 抗生物質・血乳の混入に注意する。
 2. 搾乳機器・バルクの洗浄はされているか。
 3. バルクのスイッチ入れ忘れはないか。
- 唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である—

酪農課 加藤 喜博

配合飼料価格改定の推移について(令和5年7~9月期)



1. 主要因

①とうもろこしのシカゴ定期は、3月には630セント／ブッシェル前後で推移していたが、3月末に発表された四半期在庫が事前予測を下回ったことから、660セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、アメリカでは天候に恵まれ作付けが順調であることや、アメリカの輸出需要が低調なことなどから、550セント／ブッシェルまで下落したが、アメリカ産地で高温乾燥になるとの見通しなどにより上昇し、現在は600セント／ブッシェル前後となっている。

今後は、アメリカ産新穀の作柄に影響を与える夏場の受粉期に向けて、天候に左右される相場展開が見込まれる。

②大豆粕のシカゴ定期は、3月には510ドル／トン前後で推移していたが、ブラジル産新穀大豆が豊作であることに加え、アメリカ産新穀大豆の作付けが順調なことなどから下落し、現在は440ドル／トン台で推移している。

国内大豆粕価格は、為替は円安で推移しているものの、シカゴ定期の下落などにより、値下がりが見込まれる。

2. 海上運賃

米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、中国のゼロコロナ政策撤廃により、鉄鉱石・石炭の輸送需要が増加し船腹需給が引き締まったことなどから、4月上旬には60ドル／トンを超える水準まで上昇した。その後、原油相場が下落したこと、中国向け石炭などの荷動きが低調であることなどから、現在は50ドル／トン前後で推移している。

今後は、南米産穀物の輸送が本格化することから、海上運賃は底堅く推移するものと見込まれる。

全国全畜種総平均(全農系)トン当たり約2,000円値下げとし、銘柄別に決定する。

「みやざきミルクフェア2023」開催

JA宮崎経済連酪農課 中山 真理子

JA宮崎経済連は6月3日(土)4日(日)の2日間、イオンモール宮崎にて「みやざきミルクフェア2023」を開催、酪農理解醸成・牛乳消費拡大活動を実施しました。

今年は、例年行っていた牛乳の試飲や手作りバター・アイスクリーム教室を実施し、直接牛乳・乳製品に触れ合ってもらえることができるイベントとなりました。

動くぬり絵や模型牛「ミル子」の搾乳体験は途切れることがなく、「牛乳」をテーマにしたステージイベントも多くの来場者で賑わいました。

今後もこのようなイベントを通して酪農を身近に感じてもらい、楽しい思い出として牛乳をたくさん飲んでもらえたらと思います。

【ミル子の搾乳体験】



本物そっくり模型牛「ミル子」の搾乳体験も大人気☆

【みやざきミルクバー アレンジミルク試飲】



4種類の宮崎県産牛乳にカルピスやミルメークなどを加えて作るアレンジミルクの試飲は大好評でした。

【動くぬり絵】



ぬり絵がビジョンの中で動き回るアトラクション

【手作りバター・アイスクリーム教室】



【ヒナタテラスでのみやざき犬・天尊降臨ヒムカイザーショー】



「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう」
キャンペーン知事贈呈

宮崎県酪農青年女性連絡協議会は、6月2日(金)に、宮崎県庁にて県知事・両副知事・農政水産部長・畜産新生推進局へ牛乳・乳製品を贈呈し、今年度の「父の日に牛乳(ちち)を贈ろうキャンペーン」としての消費拡大運動を実施しました。

宮崎県酪農青年女性連絡協議会会長の田中克典氏は、「日本全国の酪農家が厳しい状況に置かれている。消費者の皆様には一杯でも多く牛乳を飲んでいただきたい。また飲むだけではなく料理にも使っていただきたい。」と話されました。

河野知事は、牛乳を飲んで「とても美味しい。今後も牛乳や関連製品の消費を促し、しっかりと生乳生産を支えていきたい。」と話されました。その後、同協議会の役員の方たちと共に、知事と会談されました。

知事贈呈だけでなく、地域の青年女性部会でも各市町村長や県下JA組合長方に各地区の代表から随時贈呈を実施しています。

これからも「父の日には牛乳(ちち)」と定着できるよう積極的に活動していきます。

JA宮崎経済連 酪農課 興梠 真望



河野県知事への贈呈式



農政水産部長への贈呈式

自給飼料生産の取組 ～イタリアンライグラスKyushu1の栽培事例～

畜産試験場酪農飼料部 主任研究員 黒木邦彦

1. はじめに

近年の輸入粗飼料価格の高騰は、酪農経営の不安定化の要因となっています。経営コスト安定化のためにも、高品質自給飼料の生産が求められています。

一方で、ここ数年は春先の天候不順による冬作牧草の適期刈取りや調製がうまくいかず、収穫した牧草の品質が思わしくない場面が見られます。

これらの状況に対応する選択肢の一つとして、畜産試験場で実施した極早生イタリアンライグラス（Kyushu1）の栽培事例を紹介します。

2. 畜産試験場の取組内容

冬作牧草にイタリアンライグラスのいもち病耐性極早生品種「Kyushu1」を栽培体系（図1上段）に組み入れて

- 1) 収穫機会の増加（冬期1回分増加）
- 2) 天候が安定した冬期に収穫することで高品質牧草を確保
- 3) 作期の分散による年間を通じた牧草栽培作業の平準化

などのメリットを検証しました。

また、早期の作付のため雑草対策が必要となることから除草剤散布の効果を確認しました。

作物名	体系	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イタリアンライグラス	極早生種				収穫				施肥・耕起	播種・鎮圧			収穫
	早生種			収穫	収穫				施肥・耕起	播種・鎮圧			
	晩生種			収穫	収穫	収穫			施肥・耕起	播種・鎮圧			

3. 極早生イタリアンライグラス栽培のポイント

- いもち病対抗性（9月播種が可能）
- 刈取り後の乾燥が容易（Kyushu1は直立タイプで刈取り時の乾物率が高い）
- 年間を通じた作業分散が可能（冬の農閑期に刈取りを実施できる）
- ×9月播種を行う場合、雑草対策が必要となる場合がある

4. 栽培概要

栽培ほ場：場内ほ場（約3ha）
 栽培品種：Kyushu1
 播種量：3kg/10a
 播種日：2021/09/22（播種後 覆土・鎮圧）
 収量調査日：2021/12/20（1番草）、2022/04/04（2番草）
 2022/05/16（3番草）、2022/06/27（4番草）



畜産試験場で栽培中のKyushu1

5. 除草概要

除草剤：スルホニルウレア系除草剤
 散布日：2021/10/13、10/22
 希釈量：薬剤3g、水1000
 散布法：ブームスプレーヤー
 散布量：1000l/10a



除草剤散布の様子



6. 除草剤の効果



除草剤散布後4日目の状況



除草剤散布後9日目の状況



枯死したハリビユ

5 除草剤の効果とコスト（1番草）

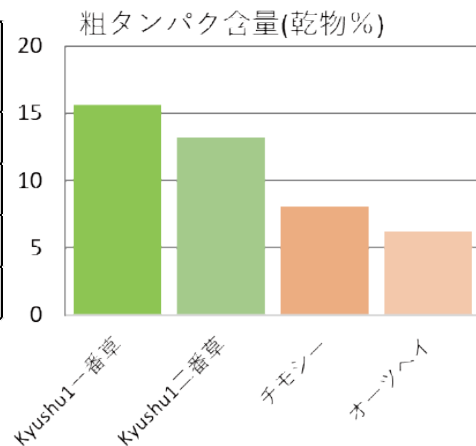
区分	播種量 (kg/10a)	除草剤	収量調査日	現物収穫 (kg/m ²)	乾物率 (%)	乾物収穫 (kg/10a)	種子代 (円/10a)	除草剤 (円/10a)	10a資材費	乾物1kg資材費 (円/kg)
10/13 除草区	3.0	スルホニルウレア系除草剤	2021/12/20	3.23	19.02	614	2,442	759	3,201	5.21
10/22 除草区				2.95	19.02	561	2,442	759	3,201	5.70
無防除区				1.27	19.02	242	2,442	0	2,442	10.11

6 収量調査結果

	播種量 (kg/10a)	播種日	調査日	熟期	現物収量 (kg/m ²)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)	備考	
Kyushu1	1番草	3.0	2021/09/22	2021/12/20	出穂期	3.23	19.0%	614	ヘイレージ調整
	2番草			2022/04/04	出穂期	3.87	22.5%	871	追肥:尿素8kg/10a 乾草調製可能
	合計					7.10	-	1,485	
	3番草			2022/05/16	開花期	0.97	18.1%	176	参考(追肥なし)
	4番草			2022/06/27	開花期	0.63	28.6%	180	参考(追肥なし)

7 輸入牧草との粗タンパク含量の比較

草種	粗タンパク含量 (乾物%)	飼料成分表の標準値
【生草】Kyushu1一番草[12月]	15.7 ^{*1}	13.7
【生草】Kyushu1二番草[4月]	13.3 ^{*1}	14.3
【輸入乾草】チモシー	8.1 ^{*2}	8.1
【輸入乾草】オーツヘイ	6.3 ^{*2}	6.3



※1：Kyushu1は畜産試験場での分析値

※2：輸入乾草は飼料成分表から抜粋

8 Kyushu1栽培にあたって

- 1番草の収穫時期は年末年始となり、低温で生育が緩慢なので出穂期の期間（刈取り適期）が長い
→高品質な粗飼料確保が可能
→作期分散が可能
- 耐倒伏性があり乾物率が高く乾燥しやすい
→乾燥調製が容易
- 栄養価が高い国産牧草が確保できる
- 早期の除草剤散布による雑草対策が望ましい
- 高温に強く4番草まで収穫できた【参考】

飼料確保の安定化で経営安定を目指しましょう！

(お問い合わせ：畜産試験場酪農飼料部 0984-42-4837)

農大通信 vol.3 ~ 5月16日の誓い~

気付けば令和5年度も四半期過ぎてしまいました。4月に入学した1年生も、5月にはインターンシップで近隣農家での研修を積み、日に日に顔つきにも凛々しさが増してきた様感じます。長いようであつという間の2年間、大いに学び、大いに楽しんで過ごしてもらいたいものです。

さて、農大通信も第3回となりました。今回のテーマは「第13回口蹄疫慰霊祭」です。今から13年前、平成22年4月20日に本県で発生が確認された口蹄疫は、県内の畜産を始め、様々な産業に大きな被害をもたらしました。それは本校においても例外ではなく、同年5月16日に本校で陽性牛が確認され、その結果、牛218頭とヤギ2頭の計220頭が殺処分、埋却される事態となりました。



松田校長の講話を聞く学生一同

本校では、その辛い体験を教訓とすべく、毎年5月に口蹄疫慰霊祭を実施しております。本年も5月16日に、13回目となる口蹄疫慰霊祭を開催しました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全校生徒を一堂に会すことができず、制限も多かったのですが、今年は久しぶりに全体での開催が叶い、感慨深いものを感じました。

慰霊祭では、松田校長自身の防疫作業の実体験を交えた講話に加え、宮崎家畜保健衛生所の内山防疫課長による県内での発生状況や家畜防疫に関する御講演を頂き、在校生を代表して畜産学科2年の大瀧

大和さんが誓いの言葉を宣誓しました。



在校生を代表して誓いを述べています

その後は、現在、肉用繁殖牛の放牧場として再利用されている埋却地の前に設置された口蹄疫慰霊碑に場所を移し、一人一人が思いを込めて花を献げ、黙祷とともに、犠牲になった220の命に慰霊の意を表しました。



順番に献花をしていく畜産学科の学生達

現在は、当たり前のように授業や実習を通じて牛と接することができる日々を送る私たちですが、ほんの十数年前はそんな当たり前が享受できなかったことを忘れず、「命を無駄にしない、そして二度と発生させない」ことを固く誓い合いました。

農学部 ナンノ教授のひとりごと

アイルランドの国際学会、そして酪農を見聞

南野 快

5月下旬にアイルランド西部の街、ゴールウェイで開催の第11回国際反芻類繁殖シンポジウムに出席した。4年に一度開催の学術集会で、前回はブラジルのフォス・ド・イグアスにて2018年に開催されたので本来なら2022年開催予定だったのだがコロナ禍により1年延期になった。その名が示す通り、反芻類の繁殖がテーマだがその多くは家畜としての牛の繁殖に関連する基礎と応用、臨床に関する研究発表とディスカッションであり、世界トップクラスの研究者による集会である。今回、4日間で46題の口演と186題のポスター発表があった。30カ国から計329名が出席し、国別で最も多かったのがアメリカの85名、次が地元アイルランドの52名、そしてイギリスの19名と続いた。日本からも9名が出席した。

大会初日の前日午後にゴールウェイ近郊の酪農家を視察するツアーが催されたので参加した。午後3時前に現地に到着、牧場主のヘンリーさん(61歳)が放牧中の泌乳牛達と参加者(10数名)を前に、「家族4名と雇用者1名が従事、今は長男が実務の中心を担っている、搾乳は230頭ほど、飼料の85%以上は自家産、種付けは毎年5月1日から10週間の季節繁殖、発情発見はネックカラーのアクティビティモニターとテイルペイントを利用、初回人工授精受胎率は55%、性選別精液を未経産牛に使っているがその受胎率も同程度」、などなど説明してくれた。特に「酪農ほどやり甲斐のある素晴らしい仕事はない」との説明が印象的だった。また、いかにして労働効率を上げるか(労働時間を少なくしつつ生産性を維持するか)に腐心しているとのことだった。

午後3時半になり、搾乳を見学した。5年前に導入し1周50頭のロータリーパーラー(ニュージーランドのWaikato milking system社製)で、そこにいた従業員はミルカーを装着する1名だけだった。

残りは全て自動である。1時間強で全頭の搾乳を終えていた。

アイルランドは夏でも最高気温が30度を超えることはほとんどなく(昨年一度、31.2度を記録したことがあって大騒ぎしたとのこと)、私が現地には滞在中は晴天でも朝方は10度未満、日中に20度を超えると人々は「暑い」と言っていた。この国の乳牛において暑熱ストレスは問題となっていない。2015年にEUにおける牛乳割当(クオータ)廃止により、アイルランドの乳牛頭数は大幅に増加し、過去8年間で牛乳生産は80%増えた。

このように今、アイルランドは酪農において自然環境面でも政策面でも良い状況にあるが、かつて(180年近く前)この国はジャガイモ大飢饉で多大なる苦しみを経験した。餓死と移民の結果、特に西部では人口減少が大きかった。アメリカ移民にアイリッシュ系が多いのはそのことも関係している。今回の学会に参加したアメリカ人の中にもアイルランドと縁がある人が複数いることだろう。



写真:アイルランド・ゴールウェイ近郊の酪農場のロータリーパーラー。230頭の搾乳を1名が1時間強で作業する。ミルカー装着以外の全行程が自動で行われる。

ルーツを訪ねて！「老牧夫回想録」より（高橋照次著）

ワイカトウ市乳会社

そぼ降る雨の中をワイカトウ・ミルク・カンパニーを訪ねる。緑の芝生と美しい花園に囲まれた工場だ。事務所の入口に七個のメダルをつけた額が飾られている。この市の主催する庭園コンクールの優勝メダルでハミルトンでは最高の荣誉だと云う。

七〇年前に創められた会社で、今の工場は十年前の改築、現在の株主は五四戸の酪農家で、この五四戸から日量二四〇石を七五石入りのタンク・ローリー四台で集めている。脂肪率は四・一％、原乳受入価格は一ガロン（二・五升）二四セント、一八〇c.c.換算三円八四銭、一kg当り約二一元、これもあとで気がついたが乳代の二〇％を引き去り積み立てている額は含まれていないようだ。したがってその分を加えると約二六～二七円になる。

こゝではハミルトンとその附近七五、〇〇〇人に供給しているが、販売は別の会社がやると云うことだから、説明のあった一ポイント（三・一合）四セント（十六円）は卸価格で、末端価格が五セント（一八〇c.c.当り六円四五銭）となっているようだ。

学校給食は義務教育課程の一、二、〇〇〇人に一ポイントづゝが無償で与えられていたが最近中止されている。中止の理由は「子供達が肥り過ぎたのでやめたのか、それとも政府が貧乏になったのか我々にはわからない」とユーモラスな説明だった。

学ぶべし回収場 この工場でもっと胸を打たれたことは回収されて入って来る牛乳ビンが実にきれいだったことである。日本の市乳工場では回収ビンの中に投げこまれたキャップや煙草の吸殻とりに多数の女子作業員が居るのが通例だが、ちょうど回収ビン（一ポイントビンが二〇本づゝ鉄線で作られた容器に入って）がトラックで搬入されて来たけれども皆きれいに洗われていて、そのまゝ洗場機に送られる。

日本でも、もっとこんな初歩的な社会教育を徹底したら（南日本KKではよく訓練されているようだが）処理加工コストも下り、原料乳価格対策からも好ましいことだ。

昨日サウスコンバさんがジャージーを飼っている人はいないか？と尋ねて時、私の地区にはジャージーがいると答えたのがきっかけで、コンバさんが今日約一時間近く私の隣に掛ける。日本の略図を書いて日本の酪農概況や二四、〇〇〇頭のジャージー分布、宮崎県の酪農概況、十月十日から蒜山で開かれた全日本ジャージー共進会でニュージーランド直輸入の牛がグランドチャンピオンになったことなどをブロークンイングリッシュで書き乍ら説明したら、理解できたようで「君は日本の酪農だけでなくいろんなことをよく知っている。よくわかった。有難う」とお世辞を言ってくれた。

全酪連 夏のキャンペーン

お問い合わせ

ハイパフォーマンスに
挑戦!
Challenge!

愛牛を大切にしたい、
その想いをささえます

ルーメンPHの調整に

ゼンラク重曹

500円/袋 値引き

デーリィMGソーダ
20kg紙袋ペレット

300円/袋 値引き

全国酪農業者同組合連合会

肝機能、繁殖成績の向上に!

マル肝

700円/袋 値引き

メチピタ・Vプラス
500ml×10本/箱
10L/箱

320円/箱 値引き
1,650円/箱 値引き

暑熱時のミネラル補給に

アクアチャージ
2kg×5袋/箱

770円/箱 値引き

暑熱環境対策に

ナイアクールZ

5袋に1袋 添付
※分納可能

急速なビタミン給与に最適

ビプロソマテックAE1000
1箱 50g×5袋
すこやかプセル

300円/箱 値引き

150粒入り 1,000円 値引き
300粒入り 2,000円 値引き

キャンペーン期間 令和5年6月1日～9月30日



夏場対策の実施について

今年も宮崎に「暑い夏」がやって来ます。

年々、暑さも厳しくなる一方であり、暑熱による乳牛へのストレスは甚大なものと考えます。そこで、生産性の低下を防ぐ為、夏場対策として乳牛用配合飼料のビタミン強化を実施します。

【対策内容】

夏場の気温上昇にともなう乳牛への影響(ストレス)として、

- ①免疫力や細胞組成の低下
- ②細胞や組織にダメージを与える過酸化物質の増加、が考えられます。

そこで、ビタミン強化を行うことでストレス増加による生産性低下の抑制が期待できます。

- ◇ビタミンAには上皮細胞の健全性維持の機能があり、牛乳を生産する乳腺細胞も上皮細胞であるため、乳房炎や体細胞の増加を未然に防ぐ事が期待される。
- ◇ビタミンEには抗酸化作用があり、過酸化物質の除去に貢献し、かつ、免疫機能の強化に効果がある。

【対策により期待される効果】

- ① 乳房炎や体細胞増加の抑制 ②乳量低下の抑制 ③繁殖成績低下の抑制

【対策銘柄】

- ・乳ブレンド18
- ・乳スタンダード
- ・乳配M



【対策予定期間】

令和5年5月中旬～9月末